



1997（平成9）年3月11日

東京都知事
青島幸男 殿

社団法人 日本建築家協会
関東甲信越支部
保存問題委員会
委員長 久保寺 敏 郎

東京都復興記念館の保存要望書

拝啓 時下益々ご清祥の事と、お慶び申し上げます。

貴都におかれましては、首都として、独自の自治を目指しておられることに、深い敬意を表します。また日頃より、本会と、会員に対して御理解を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、東京都は復興記念館の一部を残して取り壊し、新たに平和祈念館との合築を行うと、聞き及んでおります。

復興記念館は、60年以上もの長い間、横網町公園に個性的な表情をもって、存在し続けています。平和祈念館の建設に反対するわけではありませんが、多くの人々がこの復興記念館がどうなるのかという情報が無いまま、事態が推移して行く事に危惧を感じます。私ども関東甲信越支部保存問題委員会は、文化財的建築の保存のみならず、建築が街の中で景観を形成する役割を担い、使い続ける事により文化や歴史が、創られると考えます。建築技術の進歩は、短期間でより巨大な建設が可能となり、新しい建物が大量に出現し、結果として貴重な文化遺産が失われていきます。特に建築後、50年～100年の建物が次々と壊され、街は急速に変わりつつあります。多様化の時代と言われながらも、雑多な要素の入り込んだ街の表情は、逆に単一化された同時代の無表情な街になってしまいます。長い歴史の流れを感じることが出来るように、実体として残すべきと考えます。壊すのは一瞬ですが、一度失われた建物は二度と取り戻すことは出来ません。特にこの復興記念館は、昭和初期に建築学者として著名な伊東忠太と佐野利器が顧問となって設計された日本の建築史上、貴重な建物でもあります。

以上の観点から性急に事を進めず、情報を公開し、ぜひ保存をと、強く要望致します。